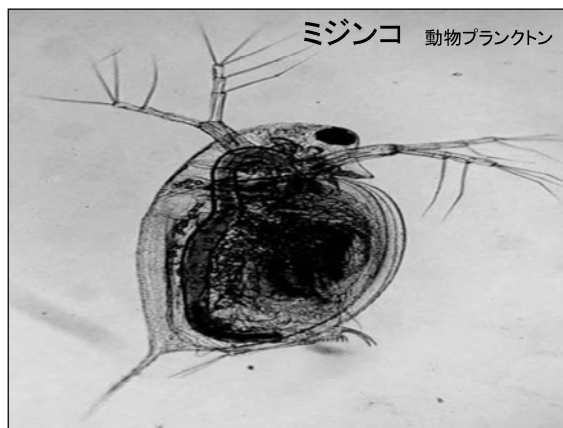


◆基調講演◆

この水に少し農薬を入れてみると、死んでしまふ、消えてしまいます。

ミジンコが死ぬということ、動物プランクトンが死ぬということは、ミジンコを食べる魚は生きていけません。

その魚を食べる大きな魚も生きていけない。
その魚を食べる鳥も生きていけません。



皆さんは農薬をまくことで、田園の自然環境、生態系を破壊しているということまで思いめぐらせたことがありますか？

今、佐渡島のトキの復活が騒がれています。兵庫県但馬のコウノトリも野生復活で騒がれています。

トキもコウノトリも消えてしまった、年々いなくなりました。

トキもコウノトリも田園の頂点に立つ鳥だったんです。

消えていったことはミジンコと関係があるのか？

蛇足ですが、佐渡島のトキは日本の鳥ではなく中国から来た鳥なんです。

日本のトキは滅びてしまったんです。

コウノトリも同じなんです。日本のコウノトリは全滅してしまったんです。



但馬の増殖センターで飼育されているコウノトリはロシアから来たコウノトリです。

これも同じです。日本人が、トキやコウノトリを全滅させた反省があつて、野生復帰を願うならば分かるんです。ここに私の疑問、怒りがあります。

次に化学肥料ですが、これも日本が未だに世界一なんです。今中国が近づいています。

中国の青々とした野菜をご覧になったことがありますか。

私は何度も中国に行っています。青々とした野菜です。

これは窒素過多だと思います。化学肥料をたくさん使っているということがよく分かる状況です。

日本が化学肥料消費量が世界一だということを確認していただきたいと思います。

それでは何故化学肥料が悪いのかという話がいつもあります。

化学肥料はやせた土地にまくことで効果を発揮します。

10年前は皆さん喜んでいました。発展途上国もまたしかりなんです。

化学肥料を使うことで食糧を増産することができて、皆さん喜んだんです。

しかし、だんだん収穫量が減ってきた、病気が増えてくることが分かりました。

化学肥料を使うことで、地力の低下が明らかになりました。土の中にはいろいろな生き物がいます。

小さな目に見えない微生物とか、みみず、オケラ、モグラまであらゆる生き物が住んでいる世界ですが、化学肥料をまくことで死んでしまうんです。

化学肥料は窒素、リン、カリという成分だけですから、生き物が死んでしまったことで、土が硬くなり地力の低下につながっていきました。

一方、肥料を使うと硝酸態窒素が発生します。化学肥料には硝酸態窒素が過剰に含まれており、これを作物が吸収したり、動物が食べ、牛乳になったりして、これを人間が食べると「ブルーベビー症」になってくることが分かりました。

硝酸態窒素が身体にはいると、ヘモグロビンと結合します。本当は酸素と結合して皆の健康を守りたかったんです。横恋慕して硝酸態窒素はヘモグロビンを奪ってしまいました。

酸素が運ばれなくなって貧血になり、窒息して家畜が死んでしまった事件がたくさん出て来ました。

牛が放牧されている青々とした牧草に肥料が入りすぎて、食べた家畜が中毒を起こして、ばたばたと倒れていきました。

硝酸態窒素が増えると作物は味が悪くなり、病気になり、害虫も増え、貯蔵率も悪くなってしまいました。

だから、化学肥料を使いすぎないことが今では常識となっています。

次は糞尿の問題です。

日本の畜産が発展して頭数も増えていきました。それによって糞尿も増えてきました。

しかし、糞尿を流すところがない。国内で生産された餌を使っていない。餌をアメリカからタンカーで運んでくるんです。

南九州の宮崎県、鹿児島県は畜産王国といわれて喜んでいますが、今深刻な状況です。

裏を返せば、糞尿王国ということですよ。大隅半島の河川は汚染されて深刻な状況です。

◆基調講演◆

次はハウス園芸。ほとんどビニールハウスです。

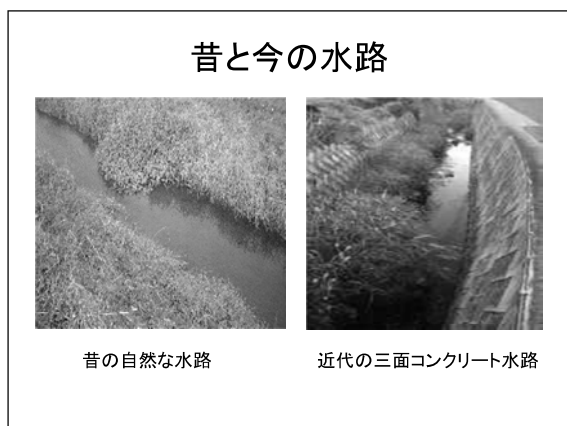
ビニールを膨大に使います。古くなったら集めて焼いていたんです。

今ではダイオキシンが発生するということで、まとめて処分しています。

ビニール消却は何故悪いかというと、低温燃焼（800℃以下）で焼くのでダイオキシンが発生します。ダイオキシンは猛毒です。

ベトナム戦争でアメリカは枯れ葉剤をまきました。枯れ葉剤にはダイオキシンが含まれてい

て、未だにベトナムでは奇形児が生まれるという後遺症が残っています。



基盤整備された水田。

田畑を四角にしてトラクターを入りやすくするために、用水路が造られました。

生き物は川と田を行き来して生活しています。秋あかね（赤トンボ）が子孫を作れなくなり、消えていきました。

今、水田はしーんと静まりかえって不気味な感じですか。

今、皆さんはこういうところで出来たお米を食べているんです。

かつては三面コンクリートが作られましたが、反省からこれからの基盤整備は出来るだけ生き物に配慮することになっています。

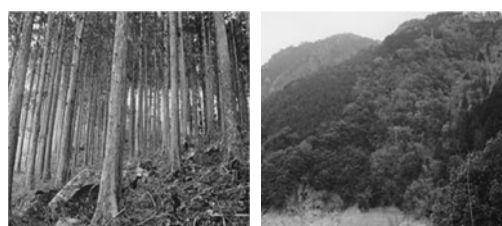
次は山の問題です。

日本の山は、人工林が約4割、残り6割が天然林と代わっていきました。

特に九州が問題です。九州は全国平均を上回り人工林が約60%です。鹿児島県は50%ちょっとです。

人工林と天然林で何が違うかというと、生き物が棲めるか、棲めないかの問題です。

人工林と自然林



人工林

自然林

昼でも暗い単層林です。

1番目に生き物が棲めない、2番目に保水力が低下して行きます。

降った雨水を吸い取ってくれるのが天然林なんです。下には落葉樹の葉が、腐敗した葉が堆積しています。豊かな山の幸は人工林ではないんです。

赤松林で美味しいキノコ（松茸）が採れるのは天然林なんです。植林した赤松林では美味しいキノコは採れません。

人工林を作ったのは良いが、手入れが行き届いていないので木を切り出しても赤字です。

安い外材が入ったことで、山林を手入れしない、手入れをする人がいない、高齢化が進んでいます。山林は本当に荒れています。

手入れが行き届いていない山林は、台風で木が倒れたら、川に流れて、流木となって下流域を破壊する問題が起こっています。

次は田園から消えていった動物、生き物たちです。

皆さんは、少年・少女時代を思い出していただければ懐かしい写真です。

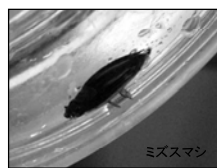
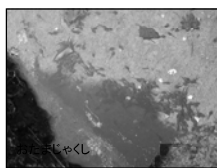
水田は、2,000年以上の歴史を持っています。多くの生き物が住み着いていたんです。

ドジョウたちです。今はいません。フナもいません。オタマジャクシも減りました。昔はみそ汁に入れて食べていたタニシもなくなりました。

よく遊んだミズスマシ、ゲンゴロウです。少年達に人気のタイコウチです。

タウナギもいました。ニホンイシガメ、クサガメもいました。

トノサマガエルも減っています。



原因として除草体系が変わったことが報告されています。

昔、除草剤は田植えの後1~2週間してまいりましたが、今は苗床の時からまいています。

田植えしたときには除草剤が効いているのです。トノサマガエルが卵からかえるのも田植えの時期なので、急激にカエル達が水田から減っていると感じています。

メダカは絶滅危惧種です。西洋メダカも減っています。赤とんぼも減っています。

私の田園には赤とんぼが来ます。それは除草剤をまいていないからです。

除草剤をまくとトンボはいません。餌がないということです。

◆基調講演◆

コウノトリです。コウノトリは日本で野生復帰しています。

昔は牛と人間とコウノトリが、農村でのどかに共存していたんです。

こんな時代がまた来るかと学生達に聞いたら、学生はノウと言います。

日本ではトキたちが絶滅してから中国のトキで復活を始めています。

国際自然保護連合（IUCN）は、生息状況が分かっている地球上の約44,000種の約4割に当たる約17,000種が絶滅の危機にあるといい、絶滅危惧リスト（レッドリスト）に載っているといわれています。

鹿児島県では約1,200種が絶滅危惧種になっています。

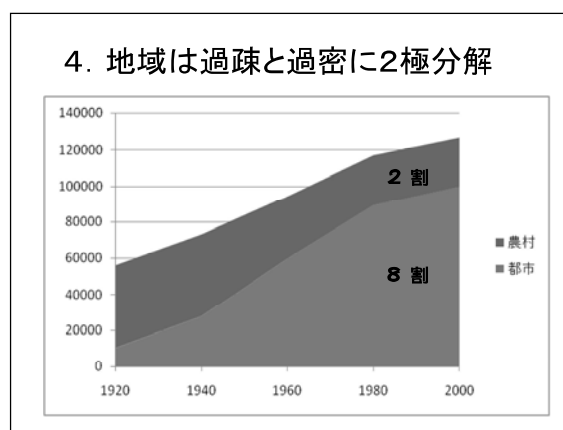
以上が日本の農村の自然破壊の問題です。

緑、緑と言うけれど、緑は深刻なんです。緑に騙されるなど都会の人たちに言いたいです。

もう一つの「故郷」を歌わなくなった理由は、日本の農村社会そのものの崩壊です。

日本の農村地帯は、過疎の農村と過密な都会の二極に分解されました。

産業別就業人口比の推移を見ると、第一次産業に就業する人口は、1880年には第二次・第三次産業に就業する人口より遙かに多く、80%だったのが、2000年には5%に減ってきています。



ご承知のとおり、第二次、第三次産業はどんどん伸びていきました。

第一次産業に従事しているのは今では3%以下です。

農村人口は少数民族です。失礼な言い方ですが、こんなことを言うと怒られますが絶滅危惧種に近いということです。これほど深刻なんです。

農村人口の構造を見ると、昭和35年頃は、30歳、60歳の所で2つのピークがあり、バランスがとれていました。

ちょっと古いですが、平成7年頃になると65歳の所で1つのピークになっています。

もう少しするとピークが消えていくんです。これが日本の農村なんです。

農業はマイナー産業です。1年間の総生産額は1~2%しかないんです。

逃げていくのは当たり前の話だと思います。

政党も政治団体も農村型から都市型に変化したのが、細川さんの時代からなんです。

あの頃から政治家は都市型になっていったんです。

しかし、農家はこのことに気づいていないんです。自分たちの一票が政治を変えていると思っ
ているんです。

日本人の多くは都市に住んでいて、農村人口は約2割、8割は都市に住んでいます。

中山間地は特に深刻で、老いる村から消える村になっていきます。

こんな暗い話ばかりでごめんなさい。

皆さんが気づいていないからこんな話をするんです。どんどん集落が消えていく、これが
日本の現実なんです。

鹿児島県は過疎率が全国3番目と新聞に出ていました。

私が住んでいる霧島市は過疎にはなっていません。これは数字の魔術なんです。

霧島市が過疎に入っていないのは、1市6町で大型合併したので、国分・隼人に人口が集
中していて過疎に入らないんだそうです。

霧島市の中でも牧園、横川、溝辺は過疎だと思っています。

前に新聞を見て唖然として、ページをめくれなかったことがありました。

その記事は「津田集落さよなら」という見出しでした。

最後に残ったお年寄り二人が転居してしまい、集落が消えることになり記念碑を作ったん
です。私は密かに訪ねてみようと思っています。

こんな集落がどんどん出てきます。

中山間地農村は、1990年に140、122あった集落が、10年後の2000年には
135、179集落に減少し、この10年間で4,940集落が消滅してしまいました。

鹿児島県は43市町村の内87%の市町村が過疎となりました。

この写真には人が住んでいるので洗濯物が干
してあります。洗濯物が消えるということは人
が住んでいないことになり、この家は朽ちてし
まいます。

家は、人が住むと生き返りますが、住む人が
いなくなりこんな廃屋が増えてきました。

この写真は失礼ですが後ろ姿を撮らせていた
だきました。

